

テレコーラス・プロジェクト インターネットを使った合唱 アンケートに応えよう

め大阪音楽大学大学院の坂井威文先生が取りまとめています。アンケートは以下のサイトです。

<https://forms.gle/eHvVAKMZ3ikdWiTM9>

テレコーラス・プロジェクト実行委員会(代表: 本山秀毅大阪音楽大学学長)では「インターネットを使った合唱への意識調査のためのアンケート」を実施しています。

多くの合唱人は新型コロナウイルス感染症で練習もままならない状況に追い込まれています。リアルに集い歌い合うことが出来ないなら、なんとか合唱の灯を絶やさないようにとZoomなどのネット空間を使ったリモート合唱に取り組んでいる例もたくさん目にします。

テレコーラス・プロジェクトには、youtubeを利用した**テレフェス**と**テレコン**の二つの部門があります。テレフェスとは、Tele-Chorus Festival即ち合唱祭での合同合唱のように、ひとつの大きな合唱を作り上げる企画で、今回は「**群青**」でした。いっぽう、テレコンは、様々な方法で作成した動画によって参加するコンクールです。



ああ あの町で生まれて 君と出会い

テレコーラスとは、「遠隔」と「合唱」を組み合わせた造語で、合唱の新たな形態です。プロジェクトによれば、場所と時間の共有を超えて成立する合唱の可能性は、従来の合唱とはその方法や意義が異なることは承知の上で、合唱の新たな可能性の一つとして現在の状況に一つの存在感を示し始めているとし、その新たな形を生み出す力を、現在の困難からの回避のためだけでなく、さらに積極的に捉えて、そこから得られる「個人スキルの向上」「新たな表現の方法」や「演奏団体の交流」などを、アフターコロナの世界でも活用できる価値、いわば「パンデミック・レガシー」として残すことを目指しています。

アンケートは、ネットを使った合唱に対する意識調査のた

質問は15問、匿名です。テレコーラス企画に参加しなかった方でも答えられる内容で、ヴァーチャル・クワイアやZoom練習なども対象になっています。

テレコーラスについては、賛否両論があり、合唱の新しい形と評価する人、これは合唱ではないと反対する人などすべての合唱人を対象に、テレコーラス・プロジェクト企画へのフィードバックとネットを使った合唱への意識調査を目的に行なっています。

回答はあくまでサービスの改良、学術目的(坂井威文・大阪音楽大学大学院音楽学研究室/下園大樹)に、個人を特定しない形で使用されます。

テレコーラス・プロジェクト実行委員会

<https://tele-chorus.com/>

埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテスト

令和3年1月開催決定

第32回埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテスト(SVEC)が令和3年1月に開催されます。

- ・1月17日(日): 小学校の部/中学校の部
- ・1月30日(土): 高等学校の部①/ユースの部
- ・1月31日(日): ジュニアの部/高等学校の部②/レディーの部/一般の部。
- ・会場: 久喜総合文化会館大ホール。

アンサンブルコンテストは、6名以上20名以下の小規模合唱団が演奏を競うものです。参加資格は本来県連加盟団体あるいは県外であっても活動拠点の都道府県合唱連盟に加盟している団体ですが、今回は参加団体数を制限するため、小学校も含めて県連非加盟団体は残念ながら出場できません。

さらに、従来ピアノ伴奏も可でしたが、感染予防対策としてピアノの使用は不可となりました。ア・カペラでしっかり歌うことが求められます。

参加要領などの詳しいことは埼玉県合唱連盟の公式サイトをご覧ください。

<http://saicl.net/>